

病害虫発生予察注意報第1号

平成19年12月12日
三重県病害虫防除所

1 対象作物 イチゴ

2 病害虫名 ハダニ類

3 発生地域 県内全域

4 発生量 多い

5 注意報発令の根拠

- (1) 12月上旬の巡回調査(10圃場)では、ハダニ類の平均寄生株率は31.1%(H15~18平均:13.1%、前年:13.0%)、発生圃場率は80%(H13~18平均40.3%、前年:50%)と高い状況です。
- (2) 向こう1ヶ月の気象予報(12月7日発表)によると、平年と同様に平野部では晴れる日が多く、1週目の気温は平年より高くなると予想されており、今後もハダニ類が発生しやすい条件が続くと考えられます。

6 防除対策

- (1) 早期発見に努め、寄生密度が低いうちに徹底した防除を行ってください。
- (2) 薬液がかかりやすくなるよう、不要な下葉を除去して丁寧に散布してください。
- (3) 薬剤散布にあたっては、ミツバチや天敵に対する影響に十分注意してください。
- (4) 除去した下葉(特に被害葉)は、ハダニ類が寄生していることがあるので施設外で処分してください。
- (5) ハダニ類は抵抗性が発達しやすいので、同一薬剤や同一系統薬剤の連用は避けてください。
- (6) ハダニ類の寄生密度が高い状況で天敵を導入する場合は、一旦薬剤防除(天敵に影響の少ない剤)でハダニ類の密度を下げた後に導入してください。
- (7) 農薬はラベルの表示を確認して正しく使用してください。

三重県病害虫防除所
電話 (0598) 42-6365
FAX (0598) 42-7568

別表

農薬の使用にあたっては、ラベルの表示事項(使用基準や薬害・使用上の注意等)を確認して正しく使ってください。

(参考)イチゴのハダニ類に対する主な防除薬剤とミツバチ、天敵に対する影響

薬剤名	成分名	希釈倍数	使用時期 (収穫前日数)	使用回数及び主成分の 総使用回数	ミツバチに 影響する 日数	チカブリダニに対する影響			ミヤコブリダニに対する影響			コレマンアブラハチに対する影響		
						卵	幼虫	日数	卵	幼虫	日数	マミ	幼虫	日数
アカリタッチ乳剤	プロピレングリコールE/脂肪酸エステル	1000～2000倍	前日まで	-	1			0	-	-	-	-	-	-
オサダンフロアブル	酸化フェンブタスズ	2000倍	前日まで	3回以内	3			0			0			0
カネマイトフロアブル	アセキノシル	1000～1500倍	前日まで	1回	1			0			0		-	-
コロマイト水和剤	ミルベメクチン	2000倍	前日まで	2回以内	1	×	×	14	-	-	-	(バイオコントロールに記載なし)		
ダニサラバフロアブル	シフルメトフェン	1000倍	前日まで	2回以内	1	(バイオコントロールに記載なし)								
ニッソラン水和剤	ヘキシチアゾクス	2000～3000倍	前日まで	2回以内	1			0	-		0			0
粘着くん液剤	デンブン	100倍	前日まで	-	0		-	*		-	*	×	-	*
バロックフロアブル	エトキサゾール	2000倍	前日まで	1回	1	×		-	×		-	-	-	-
ピラニカEW	テブフェンピラド	2000～3000倍	前日まで	1回	1	×	×	-	×	×	-	-	-	-
マイトコーネフロアブル	ビフェナゼート	1000倍	前日まで	2回以内	1			0			0	-	-	-

注意事項

- (1) 薬剤の登録内容は、平成19年12月6日現在のものです。使用する際はラベルの内容を確認してください。
- (2) 薬剤の影響日数
 - ・ミツバチについては、三重県病害虫防除基準(平成14年度版)及びメーカーからの聞き取りにより三重県防除所が作成しました。
 - ・天敵については、日本バイオリジカルコントロール協議会の「バイオコントロール」第11巻第1号(2007)及び一部平成19年度愛知県発生予察注意報第1号から引用しました。
 - ・薬剤の影響日数は、あくまで目安であり保障された日数ではありませんので注意してください。
- (3) 記号の説明
 - : 死亡率0～25%(野外・半野外試験)、○ : 死亡率0～30%(室内試験)
 - ×
 - × : 死亡率75～100%(野外・半野外試験)、× : 死亡率99～100%(室内試験)
 - *
 - * : 薬液乾燥後に天敵を導入する場合には影響ないが、天敵が存在する場合には影響が出る恐れがあります。
 -
 - : 試験データなし